

平成21年度（第53回）
岩手県教育研究発表会資料

情報教育

「NetCommons」を用いた情報共有サイトの活用に関する研究

－研修に係る校務の効率化を目指して－

＜＜研究協力校＞＞

花巻市立宮野目小学校

花巻市立湯口中学校

県立東和高等学校

平成22年2月18日
岩手県立総合教育センター
情報教育担当
及川晃貴 菅原一志 奥田昌夫
伊藤俊也 石川修司 三田正巳
安部広一

<<目次>>

I	研究目的	1
II	研究の内容と方法	1
III	研究結果の分析と考察	1
1	「NetCommons」を用いた情報共有サイトの活用に関する基本構想	1
(1)	岩手県内の教育機関ネットワーク環境の状況	1
(2)	「NetCommons」の概要	2
(3)	情報共有サイトの概要	2
2	「岩手教育情報交流ネット」の設計と構築	3
(1)	ネットワーク・ハードウェアの設計	3
(2)	セキュリティ対策	3
(3)	情報共有サイト「岩手教育情報交流ネット」の設計と構築	3
3	「岩手教育情報交流ネット」の導入準備と試行運用	4
(1)	「岩手教育情報交流ネット」利用のためのユーザ情報登録	4
(2)	研修講座申込みにおける試行運用	4
(3)	研修講座のフォローアップにおける試行運用	5
(4)	「岩手教育情報交流ネット」の利用状況について	6
(5)	研修関連以外の活用	6
(6)	「岩手教育情報交流ネット」の運用に関する諸問題と改善点	9
4	「岩手教育情報交流ネット」の運用に関する規程及び利用マニュアルの作成	10
(1)	「岩手教育情報交流ネット」運用に関する規程について	10
(2)	「岩手教育情報交流ネット」の利用マニュアル作成の留意点	10
(3)	「岩手教育情報交流ネット」の利用マニュアル作成の概要	10
IV	研究のまとめ	10
1	研究の成果	10
2	今後の課題	11

I 研究目的

県内の小・中・高等学校，特別支援学校には，コンピュータやインターネットに接続できるネットワークが整備され，授業や校務への活用がすすんでいる。現在，紙媒体（郵送）によりやりとりされている研修に関わる各種調査や事務手続きに，これらのネットワークのしくみを活用することができれば，学校での研修に係る校務の効率化を図ることができると考える。

しかし，現状では，県及び各市町村ごとに独自のネットワークを採用し，県内の学校を網羅するイントラネットが存在しないため，教育センターと県内の小，中学校間の情報のやり取りはインターネットを介した方法に限られており，データの暗号化や利用者の制限などのセキュリティの確保が難しい。

このような状況を改善するためには，他県の教育センターでも利用され効果を上げているオープンソースの情報共有基盤システムである「NetCommons」を利用して，セキュリティを確保した情報共有サイトを構築し，校務に活用することが有効であると考えます。

そこで，この研究は，「NetCommons」を用いた情報共有サイトを構築し，その運用規程及び利用マニュアルを作成して活用することにより，学校での研修に係る校務の効率化を図ろうとするものである。

II 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 「NetCommons」を用いた情報共有サイトの活用に関する基本構想の立案（文献法）
- (2) 基本構想に基づく情報共有サイトの設計と構築（文献法，開発法）
- (3) 基本構想に基づく運用規程及び利用マニュアルの作成（文献法，開発法）
- (4) 情報共有サイトの導入準備（実践）
- (5) 情報共有サイトの活用実践及び実践結果の分析（実践，質問紙法）

2 研究協力校

花巻市立宮野目小学校，花巻市立湯口中学校，県立東和高等学校

III 研究結果の分析と考察

1 「NetCommons」を用いた情報共有サイトの活用に関する基本構想

- (1) 岩手県内の教育機関ネットワーク環境の状況

岩手県内の教育機関のネットワーク整備状況は，校種によってかなりの差異がある。各学校からインターネットへ接続できる割合は100%と報告されているものの，特に市町村のネットワーク環境下にある公立小・中学校においては，校内 LAN の敷設や情報機器の配備が計画段階の市町村も多く，十分に整備されているとはいえない。

岩手県では，平成14年4月から「いわて教育情報ネットワーク」の運用が開始されており，県立学校（高等学校，特別支援学校）と県教育委員会，各教育事務所は専用回線によってイントラネット接続されている。この「いわて教育情報ネットワーク」は岩手県の「いわて情報ハイウェイ」を基幹として，「行政情報」「防災情報」「医療保健福祉情報」「県民情報」と並んで，「教育情報」のネットワークとして敷設されているものである。県立学校においては校内 LAN の整備とともに各教員に対しても一人一台コンピュータが貸与され，授業や校務においても積極的に活用されている。「平成20年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査

結果（文部科学省，平成21年8月）」によると，教員の ICT 活用指導力の状況（都道府県別・高等学校）で岩手県は，「校務に ICT を活用する能力」が 96.6%で全国第一位など，五項目中三項目で全国第一位と報告されている。一方，公立の小・中学校では，市町村ごとのネットワークに属しているか，あるいは学校単位で任意のプロバイダーに契約してインターネットに接続していることから，小・中・高・特別支援学校間で共通して利用できる専用のネットワークは存在していない。したがって，デジタルデータの共有は難しく，電子メールの利用以外は，ほとんどが紙媒体で情報のやりとりが行われている。

そこで，各学校の現有ネットワーク環境を生かし，インターネット上に情報共有できるサイトを構築することで，従来では実現できなかったデジタルデータの共有が可能となり，学校間や，教育委員会と学校間のデータのやりとりが実現できると考えた。

(2) 「NetCommons」の概要

「NetCommons（ネットコモンズ）」は，国立情報学研究所 NetCommons プロジェクトが開発したコンテンツマネジメントシステム（Content Management System，以下「CMS」と表記）である。Linux や Windows など各種 OS 上で動作し，オープンソースとして無償で提供されている。CMS とは，Web ページを構成しているテキストや画像などのデジタルコンテンツを統合・体系的に管理し，配信・公開などに必要な処理を行うシステムの総称である。Web ページの作成や公開のための専門の知識や技術が必要ないのが最大の利点である。現在，岩手県の公式ホームページも CMS により運用されており，各部署ごとに Web ページの編集権限が与えられて利用されている。

「NetCommons」は以下のモジュール【図1】を組み込んで利用することができる。また，システム管理者が各ユーザの利用権限を設定することにより，外部配信向けの「パブリックスペース」，特定のユーザ間で利用できる「グループスペース」，個人専用の「マイルーム」など用途に合わせてルームを開設することができる。

<p>■モジュール お知らせ／アンケート／チャット／メニュー／カレンダー／新着情報／リンクリスト／掲示板／ キャビネット（ファイル管理）／登録フォーム／ToDo（予定表）／日誌／フォトアルバム／検索 等</p> <p>■管理系モジュール 会員情報／会員管理／個人情報管理／ルーム管理／権限管理／システム管理／モジュール管理 等</p>

【図1】NetCommonsで利用できるモジュール

「NetCommons」は，これらのモジュールを組み合わせることにより目的の機能を果たすルームを短時間で構築することができる。現在では，このような利便性を生かして，屋久島町公式サイト，那覇市安心安全情報提供システム，埼玉県立総合教育センターをはじめとして，全国 2000 以上の団体において「NetCommons」が導入されている。

(3) 情報共有サイトの概要

さまざまな観点から「情報共有サイト」の定義はされているが，本研究においては【図2】に示す以下の機能を持ち，「NetCommons」を用いて構築されたサイトを指すものを「情報共有サイト」とする。

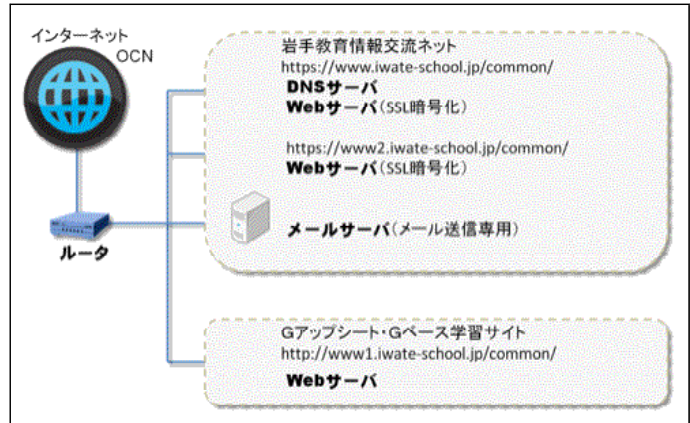
<p>■各ユーザ間で情報共有することを目的としたサイト</p> <ul style="list-style-type: none">・「掲示板」機能・・・・・・・・・・特定のテーマについて情報共有ができる・「アンケート」機能・・・・・・・・アンケートの回答・集計ができる・「電子メール配信」機能・・・・・・・・メールマガジンのようにメールを一斉配信できる・「ファイル管理」機能・・・・・・・・デジタルデータのアップロード・ダウンロードができる

【図2】「情報共有サイト」の定義

2 「岩手教育情報交流ネット」の設計と構築

(1) ネットワーク・ハードウェアの設計

当教育センターのネットワークは前述の「いわて教育情報ネットワーク」に接続されている。そのため、目的とする情報共有サイトを教育センターのネットワーク内に構築したのではインターネット上からは接続不可能である。したがって、全ての県内関係教育機関から接続できる「NetCommons」を用いた情報共有サイトの構築する場所はインターネット上であることが条件となる。



【図3】 情報共有サイトのネットワーク構成

そこで、民間プロバイダー（OCN）とインターネット接続のための回線契約を独自に行った。さらに、この回線にWebサーバやメールサーバ等の各種サーバを接続することで、インターネット上からの接続を可能にすることができた【図3】。

(2) セキュリティ対策

情報共有サイトを構築するにあたっては、設置した各サーバをインターネット上からの外的な攻撃から守るためにファイアウォールソフト、ウイルス対策ソフトを各サーバそれぞれに導入した。また、情報共有サイトを利用する際に、「盗聴」「改ざん」「なりすまし」「否認」等からユーザを保護するために通信情報を暗号化する方法（SSLサーバとして構築）を用いた。そのため、これら情報共有サイトへアクセスする通信プロトコルは通常の通信プロトコル「http」から「https」へ変更してセキュリティ対策を施した。

(3) 情報共有サイト「岩手教育情報交流ネット」の設計と構築

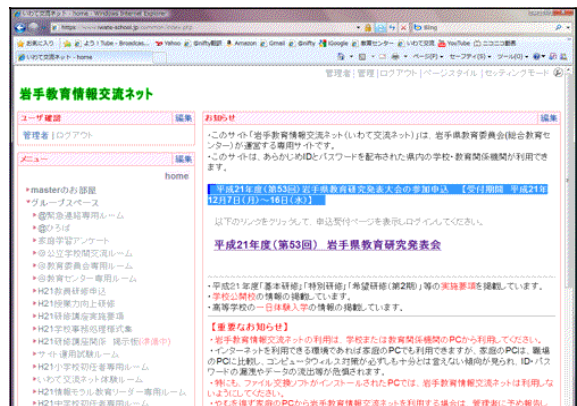
上記のセキュリティ対策を施したネットワーク及びハードウェア・ソフトウェア環境【図4】に「NetCommons」を用いて情報共有サイトを構築した。構築された情報共有サイトは、『岩手教育情報交流ネット』と命名（以下、「いわて交流ネット」と表記）し、URLは

「<https://www.iwate-school.jp/common/index.php>」と設定した【図5】。

平成21年4月からインターネット上で研修講座申込みを行う準備として、「H21教員研修申込み」ルームを設置し、「登録フォーム」機能を用いて研修講座申込みフォームを作成した。さらに、研修講座の事前アンケートを実施するために、「アンケート」機能を用いて研修講座に対する要望等に関する事前アンケートフォームもルーム内に作成した。

サーバOS:	Red Hat Linux
Webサーバソフト:	Apache
スクリプト言語:	PHP
データベースソフト:	MySQL

【図4】 情報共有サイトの環境



【図5】 岩手教育情報交流ネットのTOPページ

3 「岩手教育情報交流ネット」の導入準備と試行運用

(1) 「岩手教育情報交流ネット」利用のためのユーザ情報登録

「いわて交流ネット」のユーザは、各「学校」、県教育委員会及び市町村「指導主事」、「教育センター所員」を基本として、年度初めに ID とパスワードを発行した。この時、「いわて交流ネット」から各ユーザに対してメールによる情報提供も行われることを考慮して、連絡先のメールアドレスを厳密に確認して登録した。このユーザ確認・登録の作業は、毎年、ユーザの入れ替わりがあることが想定されるため、年度初めに必要な作業となる。現在（平成 21 年 12 月 14 日）、1406 ユーザが登録されている【表 1】。

【表1】「いわて交流ネット」登録ユーザ数（平成21年12月14日現在）

学校 736（小 423，中 212，高 72，特 14，私 15）	合計 1406 ユーザ
指導主事等 283，研修者 262，その他 125	

(2) 研修講座申込みにおける試行運用

ア 研修講座申込みフォームの準備

インターネット上からの研修講座申込みにあたり、「登録フォーム」機能を用いて、申込みフォームを作成した。このフォームの構成上、研修者 1 名ごとの申込み登録とした。申込みに必要な情報は、入力者／所属所名／学校番号／連絡先電話番号／講座番号・講座名／職名／氏名／性別／職員番号／担当教科／連絡事項等である。ユーザの入力ミスを防ぐため、ラジオボタンやリストボックスから選択して入力できるよう配慮して入力画面を設計した【図 6】。

イ 研修講座申込みの方法

この「いわて交流ネット」を利用して、平成21年4月から研修講座申込みを開始した。学校のパソコンからインターネット上の申込みフォームに入力すると同時に「いわて交流ネット」内にデータが蓄積されるため、従来の紙媒体による申込みで発生していた送付のための時間は皆無となった。

ウ 研修講座申込み後の処理

申込み手続きの締め切り後、教育センター講座担当者から研修講座の実施要項と研修者名簿が「H21 研修講座実施要項」ルーム内のキャビネットに PDF ファイルとして登録される【図 7】。同時に講座担当者は実施要項等を掲載したことを掲示板に入力することで、各ユーザ（指導主事、各学校等）へメールが自動的に配信されるように

【図6】研修講座申込みフォーム

名前	サイズ	作成日
1114小中高特初任研修泊研		09/07/27 10:36
1121小学校5年研		09/06/10 14:55
1211中初任研センター研1		09/05/01 18:07
1221中学校教職経験者5年		09/09/07 11:23
1321高等学校5年研		09/06/10 13:28
14121特別支援学校5年研		09/05/27 08:50
2221中学校理科授業実践ナ		09/06/02 16:18
2223中学校免許外教科担任		09/05/01 17:06
2321高校コーディネーター研		09/06/10 15:24

【図7】研修講座実施要項の公開

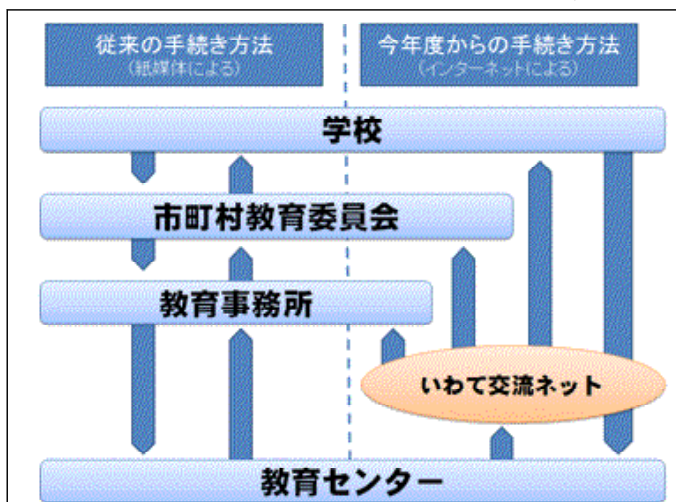
なっている。各研修者は、各校（各自）でこの PDF ファイルをダウンロードして受理することになる【図8】。

基本研修：	1218 件	希望研修：	3344 件	合計 6158 件 (対象講座数 122)
授業力向上研修：	1061 件	希望研修（夏季・冬季）：	535 件	

【図8】 研修講座実施要項等のダウンロード数（平成21年12月14日現在）

エ 研修講座申込み手続き方法の改善

研修講座の申込み方法を改善するにあたっては、ネットワークやサービスの構築だけではなく、併せて研修講座申込書などの公文書の流れ（手続き方法）についても改善を行い、各学校や教育行政機関の協力のもと周知を図った。従来の手続き方法では、研修講座申込書が学校→市町村教育委員会→教育事務所→教育センターと経由してくるため、学校から教育センターへ届くまでにかかなりの時間が必要であった。しかし、「いわて交流ネット」を利用した手続き方法【図9】に改善したことにより、処理にかかる時間は大幅に削減した。この点は、研修講座事務処理手続きの効率を上げる一つになったと思われる。

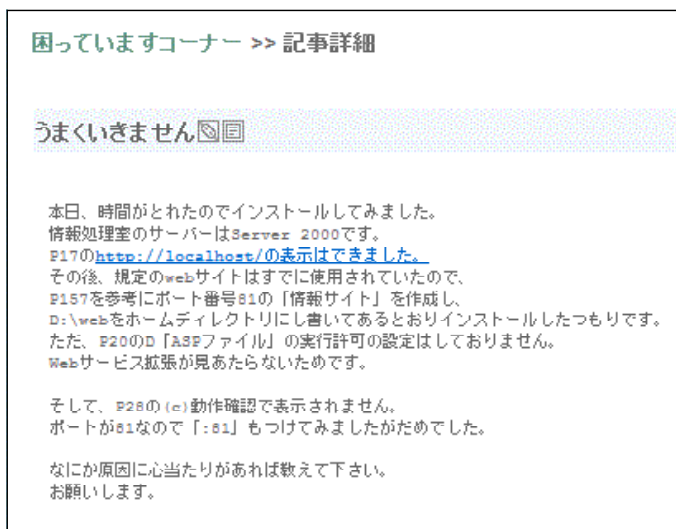


【図9】 研修講座受付手続きの流れ

(3) 研修講座のフォローアップにおける試行運用

研修講座のフォローアップを目的として「情報モラル教育リーダー専用ルーム」を開設した。「情報モラル教育リーダー養成研修講座（県教育委員会主催）」の研修者100名を対象として運用した。講座後に各所属校において「情報モラル」の授業実践が予定されていたため、関連資料の提供や情報交換ができるものを想定してルームを作成した。ルーム内には、情報交換の場として掲示板、デジタルデータを共有する場としてキャビネット（ファイル管理）、授業実践の予定などスケジュール情報を提供する場としてToDo（予定表）を設置した。

実際には掲示板【図10】を通じて、講座の中で紹介した教材のインストール方法についての問い合わせへの対応や授業実践の報告について情報共有することが

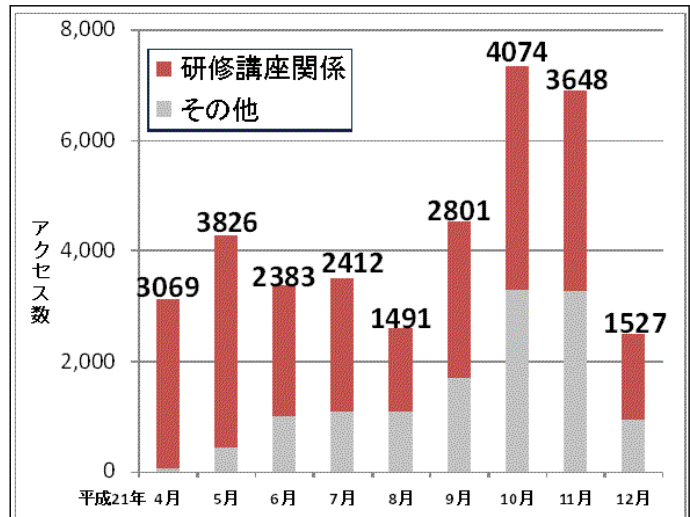


【図10】 研修講座フォローアップの例（掲示板）

できた。この掲示板への投稿内容はルーム内の他のユーザにも同時にメールで配信されているので、講座担当者とユーザ間の情報共有だけではなく、ユーザ間の情報共有も可能となった。

(4) 「岩手教育情報交流ネット」の利用状況について

本格運用を始めた平成21年4月からの「いわて交流ネット」へのアクセス状況は【図11】【表2】（平成21年12月10月現在）のとおりである。4月のアクセスの大半は研修講座申込みに関するものである。これは研修講座の第一期の申込みであり、続く5月も平成21年度から新規に開講した「授業力向上研修講座」の申込みとその事前アンケートへの回答によるものが占めている。この研修講座は約950名を対象としており、約2週間の期間内でその処理を完了することができた。紙媒体での処理であれば、この期間内で完了することは難しかったと思われる。



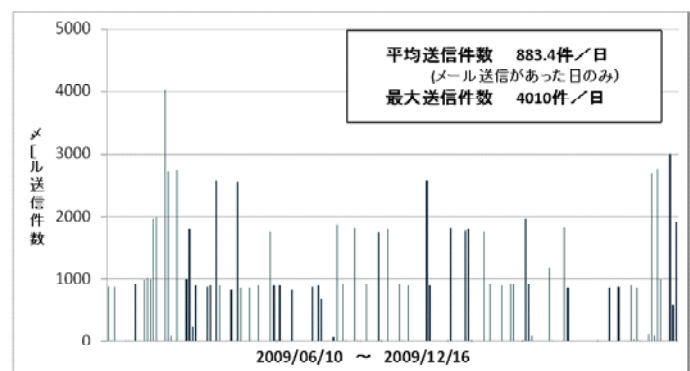
【図11】「いわて交流ネット」アクセス数

現在、「いわて交流ネット」は、研究に関するアンケート回答や岩手県教育研究発表会の申込みなど次項で説明する研修関連以外の活用についても試行運用している。そのため、着実に「いわて交流ネット」の利用頻度が高くなっている。

【表2】「いわて交流ネット」アクセス数（平成21年4月1日～12月14日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アクセス計	3069	3826	2383	2412	1491	2801	4074	3648	1527
うち講座関係分	3016	3371	1380	1326	399	1093	795	397	576

「いわて交流ネット」内には、掲示板への投稿により自動的にメール送信される機能を用いたルームが多く設置されているが、それに伴って【図12】に示すように送信されるメールの件数も必然的に多くなっている。多くのユーザを対象としているので、1日あたりのメール送信数の平均は約800件にも及んでいる。多い時で4010件のメールが送信されている日もある。大量のメール送信はサーバに対して大きな負荷になるため、サーバを安定稼働させるための設定・調整を十分にしていかなければならない。また、最適なサーバ環境を構築するためのハードウェアの検討も併せて行っていくことが必要となる。



【図12】「いわて交流ネット」からのメール送信数

(5) 研修関連以外の活用

校務及び業務の効率化を図るために「いわて交流ネット」のより効果的な利用方法について研修講座以外の試行運用したいくつかの例を以下に示す。

ア 全県対象アンケート（家庭学習に関するアンケート回答）

当センターの研究の一環として、県内各校における家庭学習の指導状況についての全県対象アンケートを「いわて交流ネット」上で実施した（回答期間：平成21年11月上旬～12月中旬）。

調査対象は、県内全小学校の教務主任及び学級担任（3・6年担任各1名）、県内全中学校の教務主任及び教科担任（3年担当の国社数理英各1名）である【図13】。

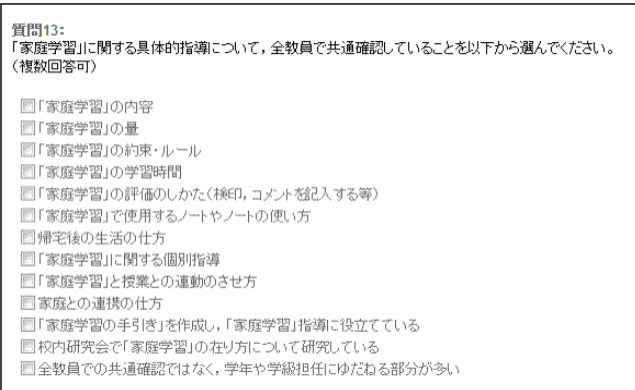
「いわて交流ネット」内に「家庭学習アンケート」ルームを設置し、「アンケート機能」を利用して、家庭学習に関するアンケート入力フォームを作成した。約1ヶ月の回答期間で約2400名を対象として実施した。

「いわて交流ネット」上では各学校からのアンケート回答と同時に各項目ごとの集計が自動的に行われる。集計結果は数値での取り出しやグラフ表示【図14】も可能であるため、従来の紙媒体等でのアンケート集計の方法に比べ、集計作業の時間が大幅に短縮された。並行して、県内抽出校の児童・生徒約1300名に対しては紙媒体でのアンケートを実施したが、両者を比較すると、「いわて交流ネット」の利用による集計作業の効率化は明らかであった。

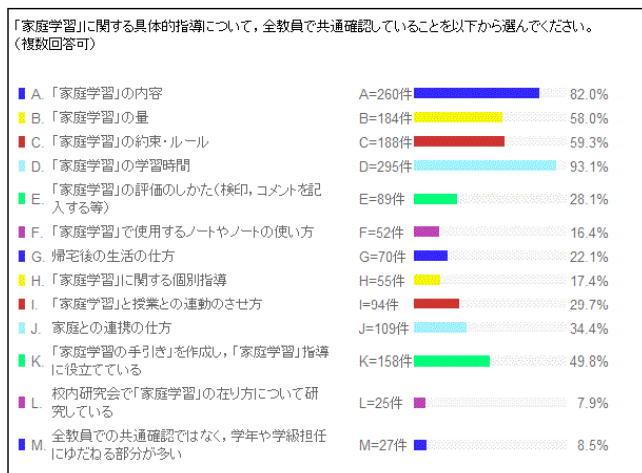
イ 学校間情報共有（学校公開等案内）

県内小・中学校の学校公開等の開催案内や中学生を対象とした県立学校の一身体験入学の案内を学校間で情報共有するために、「いわて交流ネット」内に「@ひろば」ルームを設置した【図15】。このルーム管理者は今年度は教育センター所員を担当者として充てた。各学校から情報掲載の要請を受けた後、ルーム管理者はその内容を「掲示板」掲載することで、各学校に同じ内容のメールが自動的に送信される。

この方法により従来の紙媒体での情報提供のための郵送費の削減と情報伝達時間の短縮が図られた。12月末までに48件の情報提供が行われた。



【図13】 家庭学習に関するアンケート質問例



【図14】 家庭学習に関するアンケート集計例



【図15】 学校公開等の案内

ウ メールマガジンによる情報共有（県教育委員会生涯学習文化課）

掲示板への投稿内容がユーザに自動的にメール送信される機能を利用して、メールマガジンとしての活用を試みた。

このルーム管理者は県教育委員会生涯学習文化課で、「みんなで教振！」通信【図16】として定期的にメールマガジンを配信している。

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、その他の関係者921名を対象として配信しており、平成21年7月から12月までの半年で10件配信されている。

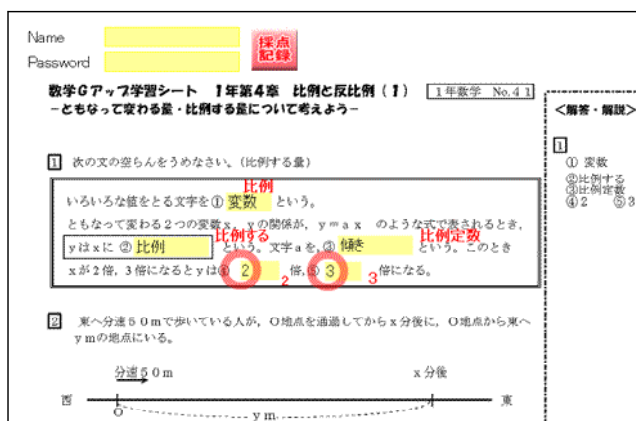


【図16】メールマガジンの例

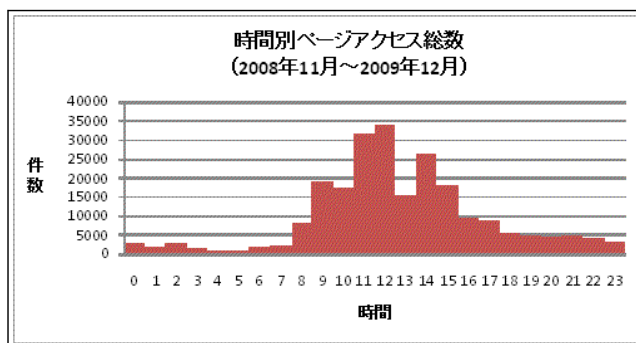
エ Gベース専用ルーム

Web上で利用できる学習サイト「Gベース」を「Gベース専用ルーム」に設置した（平成20年11月より運用）。「Gベース」とは、中学校学習指導要領に準拠した岩手独自の評価規準「いわてスタンダード」に基づいた問題集「Gアップシート」をデジタル教材化したものである。利用できるのは中学校の国語、数学、英語の3教科である。各教科とも一学年70枚の学習ページ（シート）で、三学年分210ページが準備されている。解答・解説表示、自動採点、得点記録の機能も付加されているため、自学自習にも活用できる。

利用するためのIDとパスワードは、教育センターから別途各中学校に発行されている。インターネット上から利用できるため、学校のみならず、家庭での利用も想定している。時間別のページアクセス状況【図18】より、8～15時台の利用が非常に多いことから、授業時間内で利用されていることが推察される。



【図17】Gベース（中学校数学）問題の例




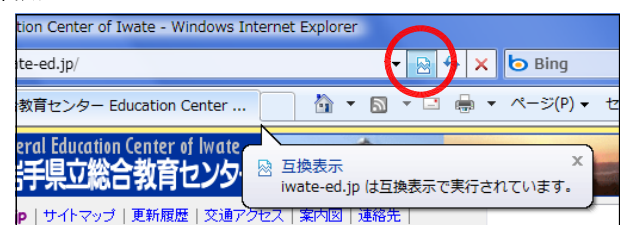
【図18】「Gベース」アクセス総数

オ 緊急連絡用専用ルーム

「緊急連絡用専用ルーム」では、掲示板に書き込んだ内容がユーザへ自動的にメール配信される機能と、コンピュータだけではなく携帯電話からのアクセスも可能であることから、緊急連絡手段のツールとしての利用が期待される。特に災害時などは、電話回線が混み合い、通話が不可能となる場合が多く見られる。そのためにもインターネットを利用した情報提供は有効であると思われる。

(6) 「岩手教育情報交流ネット」の運用に関する諸問題と改善点

「いわて交流ネット」の試行運用において、利用時の不具合等について各学校等からさまざまな問い合わせを受けた。その中で多かったものを【図19】に示す。インターネットという共通環境で運用しているとは言え、「いわて交流ネット」へのアクセス状況は利用するコンピュータの環境に依存するため、その解決方法について利用マニュアルの項目として取り入れることとした。

<p>【問題1】「いわて交流ネット」が開きません</p> <p>(原因1) SSL 導入に関わって URL を変更したため、URL が昨年度とは異なっているため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対処1 正しい URL を入力する https://www.iwate-school.jp/common/ ・対処2 教育センターの TOP ページにリンクを設定した <p>(原因2) 使用しているコンピュータのセキュリティが高いため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対処1 他のコンピュータでログインしてみる ・対処2 コンピュータのセキュリティを一時的に下げしてみる <p>(原因3) 使用しているネットワークに制限がかかっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対処1 専用回線以外に接続しているコンピュータでログインしてみる 	
<p>【問題2】ログインできない</p> <p>(原因1) 「パスワード紛失」の操作をしてしまったため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対処1 管理者がパスワードを再設定した <p>(原因2) 「パスワード」が校内の職員間で共有されていないため</p> <p>(原因3) ブラウザ InternetExplorer8 を利用したため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「互換モード」に設定して利用してみる <p>(原因4) ログインしているが、それに気づかないため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面右上に「学校名」等が表示されていることを確認してみる 	
<p>【問題3】アンケートの回答ができない</p> <p>(原因1) 利用しているコンピュータのセキュリティが高いため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対処1 別のコンピュータを利用してみる <p>(原因2) ブラウザ InternetExplorer8 を利用しているため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「互換モード」に設定して利用してみる 	
<p>【問題4】ファイルのアップロードができない</p> <p>(原因) 同上</p>	
<p>【問題5】「いわて交流ネット」からのメールが届かない</p> <p>(原因1) 登録したメールアドレスが間違っているため</p> <p>(原因2) 迷惑メールに対処するために、登録しているメールアドレスを変更した</p> <p>(原因3) プロバイダの迷惑メール対策でブロックされている</p>	

【図19】「いわて交流ネット」利用にかかる諸問題

4 「岩手教育情報交流ネット」の運用に関する規程及び利用マニュアルの作成

(1) 「岩手教育情報交流ネット」の運用に関する規程について

「いわて交流ネット」を運用するにあたり、「管理運営要綱（案）」と「利用規程（案）」を作成した。それぞれに記載した項目は以下のとおりである【図 20】。

<p>■管理運営要綱 趣旨／統括管理者／統括管理者の職務／いわて交流ネット管理者／管理者の職務／いわて交流ネット担当者／運用・管理／提供システム／利用者／利用の手続き／利用者の遵守事項／学校等における管理体制／報告／補則</p> <p>■利用規程 本規定の目的と範囲及び変更／ID の利用／情報の活用／情報の取扱／情報の管理／ID の抹消</p>

【図20】「いわて交流ネット」管理運営要綱及び利用規程の項目

「管理運営要綱」は学校教育における校務の効率化を図ることを目指して構築した「いわて交流ネット」の管理運営に関して必要な事項を記載している。また、「利用規程」は「いわて交流ネット」の利用に関して必要な事項を記載している。

(2) 「岩手教育情報交流ネット」の利用マニュアル作成の留意点

「いわて交流ネット」利用マニュアルは、「(各学校用) 利用マニュアル」・「(指導主事・センター所員用) 利用マニュアル」・「(システム管理者用) 利用マニュアル」の3種類を作成した。これは、各学校においては閲覧、指導主事・教育センター所員は情報提供、システム管理者はシステム管理を中心とした利用を想定しているためである。

また、作成した各利用マニュアルのうち、「(指導主事・センター所員用) 利用マニュアル」と「(システム管理者用) 利用マニュアル」については、セキュリティ対策上、非公開とする。

(3) 「岩手教育情報交流ネット」の利用マニュアル作成の概要

前項の利用マニュアル作成の留意点を受けて、各マニュアルの項目は以下のとおりである。

<p>■ (各学校用) 利用マニュアル (公開) (閲覧方法) ログイン／研修講座申込み／実施要項ダウンロード 等</p> <p>■ (指導主事・センター所員用) 利用マニュアル (非公開) (情報閲覧方法) ログイン／研修講座申込み／実施要項ダウンロード (情報提供方法) 掲示板／PDF ファイルアップロード 等</p> <p>■ (システム管理者用) 利用マニュアル (非公開) (管理方法) ユーザ管理／ルーム管理 等</p>
--

【図21】「いわて交流ネット」利用マニュアルの種類と内容

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) インターネット上で情報共有できる「いわて交流ネット」を構築することができた。
- (2) 「いわて交流ネット」の運用に関する規定及び利用マニュアルを作成することができた。
- (3) 年間を通じて、「いわて交流ネット」の活用を推進することができた。
- (4) 「いわて交流ネット」を利用して研修講座申込み及びフォローアップをすることができた。

- (5) 「いわて交流ネット」が学校間や教育委員会等間の情報共有するためのツールとして、多様な利用方法があることが明らかになった。

2 今後の課題

- (1) 「いわて交流ネット」の安定稼働を目指す。
- (2) より効率的に校務及び業務の推進ができる活用方法を検討する。
- (3) 「いわて交流ネット」の利用に関して、以下の項目について検討する。
 - ア 学校公開等の案内は、各学校から投稿・アップロードできる権限を与える。
 - イ 「いわて交流ネット」の運用に関する規定及び利用マニュアルを各学校及び指導主事等へ配布し、周知を図る。
 - ウ ユーザ登録の際に必要な情報収集を行う。
 - エ 最適なサーバ環境の検討を行う。

<おわりに>

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました先生方に心からお礼を申し上げます。

【参考文献】

- 岩手県立総合教育センター(2006), 中学校国語科, 数学科, 英語科における学力向上を図るための研究
http://www.iwate-ed.jp/db/db1/ken_data/center/h18_ken/h18_01a1.pdf
- 岩手県立総合教育センター(2008), 学習指導の効果を高めるネットワークの活用に関する研究
http://www.iwate-ed.jp/db/db1/ken_data/center/h20_ken/h20_12c3.pdf
- 新井紀子(2009), 「NetCommons で本格ウェブサイト」, 近代科学社

【参考Web】

- 屋久島町公式サイト <http://www.yakushima-town.jp/>
- 那覇市安心安全情報提供システム http://www.mgz.city.naha.okinawa.jp/safety_info/index.php
- 埼玉県立総合教育センター <http://www.center.spec.ed.jp/>
- グローバルサイン <http://jp.globalsign.com/>
- ocn (オー・シー・エヌ) <http://www.ocn.ne.jp/>

【引用Webページ】

- 国立情報学研究所 <http://www.nii.ac.jp/>
- NetCommons2 公式サイト <http://www.netcommons.org/>
- 文部科学省 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果【速報値】について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/08/1283617.htm